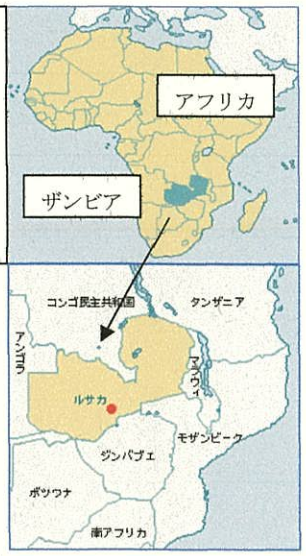
NPO法人ｻﾞﾝﾋﾞｱの辺地医療を支援する会

ORMZニュース第９３号 (H31.4.25)

事務局：宮崎市生目台西4-7-7（メール info@ormz.or.jp）文責：日高良雄



はじめに ４月下旬となりました。新しい年度となり、新１年生が大きなランドセルを抱えてか抱えられてか元気に歩く姿が微笑ましいですね。宮崎はもう暖かさを通り越して暑くなり、日差しも強くなっています。

さて、山元香代子先生がザンビアに出国され、到着するやいなや新しい車の贈呈式がありました。

今回のニュースは、車の贈呈式の様子や現地での活動報告、医学生同行レポート、などについてお伝えします。今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願いします。

ランドクルーザー贈呈式

４月１日、ルサカ市内のトヨタザンビアの店舗において，当法人への車の贈呈式が行われました。

寄贈主である田河拓治日立建機ザンビア社長及びディノ・ビアンキ・トヨタ・ザンビア社長はじめ、側嶋秀展在ザンビア日本大使，チャムカ６世伝統的指導者，マーティン・チョワ・チサンバ郡行政長官など約３０人が出席され、盛大に式典が行われ、現地のテレビで放映もされたようでした。

車贈呈に至った経緯ですが、昨年JICA国際協力塾で山元香代子先生が当法人の活動を紹介したことが発端でした。

その時出席しておられた豊田通商の矢藤さんが、現地の日本企業の集まりで当法人の活動を話されたところ、日立建機の田河社長とトヨタザンビアが50-50でランドクルーザーを寄贈して下さることになりました。

寄贈に至るまでには、ザンビア財務省から免税特権を取るための多くの事務手続きが必要で、ザンビア現地の山本さんや芦田さんに大変お世話になりました。多くの方とのつながりによって今回の贈呈式になりましたが、本当にありがたいですね。

所有している車の故障や焼失等のため稼働する車がなくなり、レンタル車で活動を行ってきましたが、早速４月10日のルアノの巡回診療に寄贈いただいたランドクルーザーを使用しました。クーラーが効いて涼しく、埃が全く車の中に入ってこず、とても快適な道程でしたと山元先生から連絡がありました。

後述する活動報告にもありますが、新車に乗っていることから、当法人が多くの支援を受け、スタッフも多くの手当を受けているのではとの噂も広まっているようです。難しいですね。

いずれにしても、当法人の活動が評価されての車の寄贈です、心から感謝申し上げますと共に，今後とも巡回診療を続けていく決意を改めて強くしたところです。

現地活動報告（山元香代子先生）

・みなさま　いかがお過ごしでしょうか。私はドバイ行の飛行機が砂嵐で遅れ、結局ドバイに１泊することになり、３月31日ザンビアに戻りました。

・こちらは、暑い日が続いていたのですが、ここ1週間は雨季のような天気が続いています。夜に雨になること多いです。今年の雨季は2月、3月とほとんど雨が降らず、ルサカを含めてメイズ（トウモロコシ）が全く収穫できないと言われています。そのため主食となるメイズをひいたミルミルの値段が高騰しているとのこと。これからもっと値上がりするとみんな不安がっています。

・断水はあいかわらずで、1日12時間以上の断水です。今日はイースターの休日なのですが、朝から全く水が出ず、15時過ぎにようやく出始めました。急いで洗い物をすませました。

ザンビア日本大使館資料から転載

・日立建機とトヨタザンビアが 50%-50%の出資でランクルを寄贈して下さることになり、4月1日に大使、チサンバのチーフ、チサンバ郡知事の出席の元、ランドクルーザーの贈呈式がありました。その模様は現地のテレビでも放送されたようです。ザンビア財務省から免税特権を取るために多くの事務手続きが必要で、山本さんや芦田さんのお世話になりました。心からお礼申し上げます。

・4月3日はサンダラでの巡回診療。患者数は85名。マラリア陽性は85名中14名(16.5%)。5歳未満の子供の陽性は29名中4人、13.8%でした。マラリア蚊の殺虫剤噴霧をしていないルアノとの境界の村からの患者が多いようでした。また、かぜ症状や結膜炎の患者が多くみられました。途中の3つの川もカラカラに乾いていました。スーダンで活動しているロシナンテスというNGOが近々ザンビアでも活動を開始するとのことで、日本人スタッフが同行されました。予防接種はルアノで実施されました。

・4月10日はルアノでの巡回診療。患者数は95名。マラリア陽性は93名中9名(9.7%)。5歳未満の子供の陽性は38名中3人、7.9%でした。昨年の同時期は陽性率が3.1%でしたので、マラリア蚊の殺虫剤噴霧の効果はあったと思われますが、少雨の影響でマラリアが徐々に増えてきている印象がありました。また、かぜ症状の患者が多くみられました。診察する建物の内部は雨季の前のように暑くてたまりませんでした。18時前に診療が終わりましたが、昼食のシマを出してもらえず、同行したスタッフはがっかりしていました。メイズの不作が関係しているのかなと思いました。新しいランドクルーザーのはじめての巡回診療でした。クーラーが効いて涼しく、埃が全く車の中に入ってこず、とても快適な道行でした。ほんとうにありがたいことです。ただ、車を寄贈されたことから、ORMZは多くの支援を受けていて、同行するスタッフは手当をいっぱいもらっているのだろうとの噂が村々で流れていて、迷惑しているとのこと。むずかしいです。

・4月17日はニャンカンガの巡回診療の予定でした。三重大、藤田保健衛生大学の医学生5人が同行されました。途中から視界を遮るようなたいへんな雨で、道路は川のようでした。何とかニャンカンガの一歩手前まで行きましたが、川が増水していて、新車のランドクルーザーで渡ることはどうしてもできず、引き返しました。学生さんには申し訳ないことでした。来週の水曜日に出かけることになりました。

・少雨の影響でマラリア患者が徐々に増えてきているので、ルアノ、ニャンカンガでのマラリア蚊の殺虫剤噴霧を計画しました。ところが殺虫剤の在庫が郡にも国のマラリアプログラムにもありません。ルサカの町で探し、店で薦められた殺虫剤を購入しようとしましたが、それに耐性を持つ蚊がいるので使えないと言われました。ムクシに殺虫剤があるといわれ、車を走らせましたが、結局在庫はなく、郡保健局の担当者に振り回されました。国のマラリアプログラムからは9月まで待ってくれと言われました。いろいろと手を尽くしましたが、殺虫剤がなくてはどうしようもありません。マラリアの患者の増えないことを祈るばかりです。ただ、今回ORMZがお金を出して、ルアノの2人が郡保健局から正式な噴霧者になるように5日間の研修を受けることができたことはありがたかったです。

・12月に盗難にあい、金庫が盗まれました。そのため引っ越しを考えていて、仕事の合間に家探しをしています。今修理中のランクルが戻ってくると計3台の車を止める駐車場が必要です。また、薬や蚊帳の在庫がありますので、広いスペースがなくては収まり切りません。値段的にも手ごろでスペースも十分な所は、安

全面であぶないとスタッフに助言され、なかなかむずかしいです。今月中に適当な所がみつからなければ今回はあきらめようと思っています。

・私の不在の間も多くの方々に助けていただきました。車の手配がつかず、レンタカーを借りながら　12月からルアノ、ニャンカンガそれぞれ月1回、ルアノは1-2月2回ずつ、巡回診療は継続されました。3月からはサンダラが再開されました。リテタ行きはまだ少しむずかしそうです。道路状況をみながら、徐々に元のペースに戻していこうと考えています。

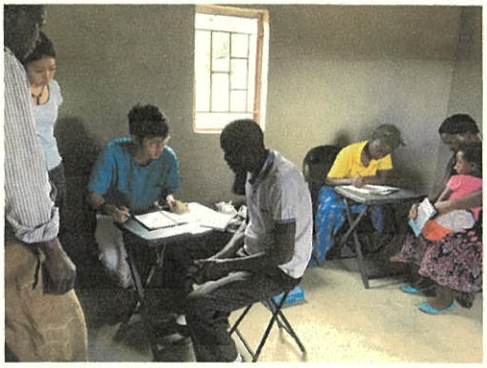
・みなさまからの支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

巡回診療に同行して

・お世話になっております。IFMSA-Japanに所属しています、東北大学2年の中鉢です。この度はニャンカンガへの巡回診療に同行させていただき、どうもありがとうございました。

・この巡回診療では同行した準医師や看護師が診療を行うだけではなく、現地のCHWの方々が体重・体温・血圧測定やマラリア検査、問診など、多くの仕事を担っていることに私は驚きました。彼らは義務感や自分の利益のためにではなく、村人の命を守りたいという気持ちから働いているのだと感じ、その姿に感銘を受けました。

・数名のメンバーは、準医師のムレタさんやCHWの方のサポートを受けながら、診察を経験させていただきました。皆、実際に患者さんを診るのは初めてだったため、貴重な経験となったようです。私は診察の様子を見学していましたが、高度な医療機器がない中で、問診・視診・触診・打診によって疾患を特定する知識と技術に驚かされました。



・しかし途中から、診察前に測られた体温に誤りがありそうだと気付いたため、子どもたちの体温を測り直すことになりました。1度以上違うことも少なからずあり、体温の測り方に問題があるのではないかと不安に感じました。

・それでも、医療者が少ない中で辺地での定期的な診療がザンビア人によって継続してなされていることは素晴らしいと思います。このような仕組みを作り、現地の人々を育成することは効果的な支援方法の一つなのだと学びました。以下、他の参加メンバーの感想です。

・医師や看護師などの資格がない住民ボランティアの人たちがとても丁寧に的確な判断をしていること、そして住民自らが主体的に動いていることがすごいと思いました。多くの患者さんが来ており、巡回診療の必要性を強く感じました。（東北医科薬科大学医学部医学科1年　大原清香）

・村での医療はお金がなく難しいと思っていましたが、次々に来る患者さん全員に診察を行うことが出来ているのを見て、この巡回診療という方法などを通して改善していける可能性はまだまだあるのだと感じました。村の人々が助け合って命を救っているのだと感じました。
（徳島大学薬学部薬学科1年　原田真優）

・ニャンカンガは、私たちが診療所を建設するプロジェクトを行っているマケニ村と同じように診療所から遠く離れた村でした。車でその村に行って診療を行うということは画期的で、この巡回診療で助けられている人々がたくさんいる現実を見て、診療所を建てるだけが支援ではないのだと感じました。
一人一人のカルテが存在し、毎月の記録がしっかりとされていたことが印象的で、そういったシステムが整っていることに驚きました。（国際医療福祉大学医学部医学科1年　金本すず）

・アフリカの道を3時間以上行ったところにも治療を待っている村の人々はいますし、その人たちにとって月に一回のこの診療はなくてはならないものなのだと感じました。また、自分自身何をしたらアフリカの人々のためになるのだろうかということを考えている中で、先生が作り上げた、単純な作業をそれぞれが役割分担をしてきっちりやる、それを現地の人たちだけでやるということのすごさと、本来あるべき姿はこういうことなのかと考える貴重な機会になりました。

・ただ、やはりドクターが足りないというのは事実です。自分自身、村の人々の問診を手伝わせていただきましたが、知識不足を露呈しただけで足手まといになってしまいました。正しい知識、技術を身につけてまた戻ってきたいと思いました。　（国際医療福祉大学医学部医学科1年 八塩知樹）

・処方する薬の量が年齢や体重別にリストになっていたりシステムがきちんと構築されており、驚きました。また、growth monitoring のカードが存在し、グラフがしっかりと作成されていることに感動しました。・日本ではX線やその他の精密検査をしなければ診断を下せないのに、CHW（CHWではなく、準医師 － 事務局注） の方々は赤ちゃんのお腹の動きを見たり触診や打診をしたりするだけで診断を下しており、能力の高さに頭が上がらない思いでした（マラリア検査などを実施しているのは、コミュニティヘルスワーカーCHWとして30日間の研修を受けています―事務局注）。将来、いざと言う時、機材が揃っていない環境でも対処が出来るように、触診や打診等の基本的な手技の練習をきちんと積もうと感じました。

・新しくORMZに加入したメンバーのトレーニングを古株のメンバーがしたという話を聞き、ザンビア人だけで運営することができていると知り、国際援助の目指すべき形だと思いました。

（埼玉医科大学医学部医学科2年 井沢仁美）

・この巡回診療への同行を通して、一人一人が多くのことを学ぶことができました。
本当にありがとうございました。　　東北大学医学部保健学科看護学専攻2年　中鉢奈波

＊事務局から：CHWの研修は準医師などがきちんと行っていますし、アフリカの辺地だからと言って、医療資格のない人間が医療を実施するようなことは決してありません。

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

・新しい事業年度（事業年度は1月から12月）となりました。賛助会費(個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附(金額は問いません)のご協力をよろしくお願いします。

・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けします。

・ご不明の点は日髙（ info@ormz.or.jp ）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替　　口座記号　01720-9　　口座番号　126351
　　加入者名　　NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金　　郵ちょ銀行　店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351
　　加入者名　：　NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会
　　カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンスルカイ

＊平成３１年（令和元年）もどうぞご支援のほどよろしくお願いします